

れているサポートの継続と拡充、さらなるバックアップ体制の構築をお願いいたします。

介護従事者の人材不足の課題、また少子高齢化が進み、今では若者1人が高齢者1人を支えなければならない状況になっております。若者も高齢者も笑顔で元気に生活するためには、心身ともに健康に年を重ねることが大切であります。今後も地域や関係機関ともうまく連携し、対象者の方の声を聴きながら、フレイル対策を進めていってください。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで約10分間、再開を3時20分といたします。

〈午後3時09分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

みらい創造クラブの東野でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

駅北復興まちづくりにおける「子育て支援施設」の設置について。

第3次総合計画審議会委員意見シート「子育て分野」において、委員より様々な子育てに関する意見が聴取されており、日頃思っていることから今後の方向性について打ち出されております。この意見シートを拝見させていただく限りでは、子育て支援施設を建設することに対し「建設的」な意見が出されており、意見の一部を抽出することで、駅北まちづくりにおける子育て支援施設設置にも符合すると考えます。しかしながら、駅北地域にお住まいの方々や、商店街の方々の声を伺うと、「子育て支援を必要な人がどれだけいるのか明確にしてほしい」といった声や、「規模も内容も新しくないのであれば、計画地には必要ない」という厳しい声も聞かれます。これらは行政だけに責任転嫁するのではなく、議員としても、このような声を真摯に受け止め、しっかりと対応していかなければならないと考えます。

駅北地域で子育て支援施設整備計画を進めることについて「承認した議員」として、今後も責任

を持って推進していきたいと考えます。

- (1) 子育て支援施設建設は、第3次糸魚川市総合計画（案）の2つの重点課題「人口減少対策」「住み続けたくなるまちづくり」に寄与するものとお考えか、伺います。
- (2) 駅北地域における子育て支援施設の建設は、今まで回を重ねてきた懇談会の意見や課題を十分に加味し、クリアできるものとお考えか、伺います。
- (3) 令和2年7月29日に行われた駅北まちづくり実践会議において、当時、にぎわいの拠点施設の方向性を「子育て支援+α」と示されましたが、その後、現在までに、「+α（プラスアルファ）」の要素について、協議された内容を伺います。
- (4) 建設予定の子育て支援施設は、他市・他県から人を呼び込める「魅力ある施設」が好ましいと考えますが、お考えを伺います。
- (5) 子育て支援施設の設置により、子育て分野の行政課題解決に近づくとは思いますが、駅北地区が市民（大家族）にとって居心地のよい特別な場所とするには、近隣住民の皆様の関わり方や、どんな協力が必要とお考えか、伺います。
- (6) 複数分散型拠点施設の整備により、整備された雁木や遊歩道において「まち歩き」をどんな人に楽しんでいただくイメージをお持ちか、伺います。
- (7) 施設設置に当たり、行政課題の対応や地域住民の皆様の要望にお応えするには、子育て支援の機能とほかにどのような機能をお考えか、伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、子育て環境の満足度向上につながり、2つの重点課題に寄与するものと考えております。

2点目につきましては、子育て世代や地域住民のほか、様々な団体の皆様と意見交換をし、多くのご意見をいただいております。今後検討してまいります。

3点目と7点目につきましては、当時の会議の場で、参加者から様々なご意見やアイデアがありました。現在行っている懇談での意見と併せ、今後、民間事業者の参入の可能性を探りながら検討して進めてまいります。

4点目につきましては、まずは親子、祖父母も含めた市内の子育て家族に楽しんでもらうことを基本として、広くご利用いただける施設を整備したいと考えております。

5点目につきましては、住民や地域の皆様には、利用者との交流や施設事業者等との連携など、商店をされている方々からは、子育て世代に向けた物品販売やサービスの提供などを期待いたしております。

6点目につきましては、キターレや子育て支援施設を活用しながら、子育て世代をはじめ、町を訪れる多くの方々から町なかを楽しんでいただくことをイメージいたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答

弁もありますのでよろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきます。

（1）番から順に質問させていただきます。

糸魚川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンには、人口減少問題に取り組む意義は、的確な政策を展開し、官民挙げて取り組めば、未来は開けるとうたっています。子育て支援に関する課題解決は、人口減少を抑制させる的確な政策と理解してよろしいか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の施策として、子育て支援の充実強化というものを位置づけて、人口減少対策の柱ということで今まで子育て支援政策については取り組んできているところでありますし、今後も引き続き、人口減少対策の大きな一つの柱として、実施していく必要があるというふうに捉えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

第2期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画には、市における子育て環境や支援の満足度で、令和元年度が52.4%であるが、およそ設置5年後程度の目標値について、満足度をどのぐらい上げたいか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

平成26年の総合計画策定時の子育て支援の満足度というのは、39.2%でありました。令和元年度に行ったアンケートでは、議員おっしゃるとおり52.4となっております。これから策定される第3次総合計画の満足度については、70%を目標値に掲げております。それは目標ですので、それを上回るように子育て支援の充実に努めていきたいと考えておりますし、満足度というのは、様々な要因で決まるものだというふうに思っております。

ただ、今おっしゃる子育て支援施設も大きな要素だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

地方の人口減少は、なかなか歯止めが利かないと考えますが、いかに市外に人口が流出せず、居心地のいい糸魚川を創出していくことが、地方共通の課題であると考えます。若い世代が住み続けたいくなるまちと感じ、そう思っていたくための施設となり得るには、周辺にお住まいの方々の理解とご協力が不可欠なのはもちろんのこと、その先ほどの70%の満足度じゃないですけども、その辺をどのように市内に機運を高めるためにお伝えしてくか、そのお伝えしたい考えがあるか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。前段の機運の部分にお答えいたします。

ご指摘のとおりでございます。周辺にお住まいの方にご理解され、受け入れていただいて、昨日も答弁いたしました可愛がっていただいて、関わっていただけるというような状況というのを目指さなければいけないと思っています。そのためにも、商店街、地元の皆さん、市民、関係団体の意見も聞くんですが、地元の方からよく意見を聴く、それだけではなくて、それに対して、ちゃんと市も、市はこう考えてるんだということを伝えるという熱的なもの、そういうものをちゃんと発して、意見交換のキャッチボールみたいのをちゃんとしていかないといけないんだろうなというふうには私は考えておりますし、今後はそうやって進めていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問の若い人が住み続けたいくなるまちとして、やはりそこには子育て世代が大きく関わっているといえますか、それも含まれるんだと思っております。その世代の要望に応えるということが、やはり機運といえますか、そういったものが上がってくるのではないかなというふうに思っております。

満足度とおっしゃいましたけれども、やはり満足度というのは、施設ができた暁には、来ていただいて満足する部分と、こういった施設があるんだなという部分の、そういった満足度もあると思いますので、しっかり情報発信といえますか、そういった情報共有というのに努めていきたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

商業地として歴史を積み重ねている駅北地区ですが、今回の子育て支援施設設置について、年間

の出生が200人を切ろうとしている糸魚川市にとって、過剰な公共投資とも言えるとも考えます。

しかし、時代の流れとともに、商店街も後継者問題や人口減少による売上げの減退に苦しんでいる中、施設設置により雇用が生まれ、人の流れが生まれるということについては、商店街的にも喜んでいるところであります。商店街にとって、本当のにぎわいとは、補助金頼みで人が集まることではなく、人が集まったにぎわいで売上げが上がる。つまり消費行動が起こることを示しております。ゆえに建てていただけるのであれば、ありがたいというくらいのものであります。人の集まりを作り出すための先行投資を、積極的に個人や団体が行える時代ではありません。であることから、糸魚川市にとって、商店街にとって、必要とされる公共投資であってほしいと願うばかりですが、設置に対する強い思いを市長、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その施設自体が商店街の発展に直に結びつくかということをおっしゃると、私は直接は結びつかないのではないかな。やはり人が交流し、また、人が行き交う場にはなると思っております。そういう今現在では、それに代わる、またそれに匹敵するような人の流れはあるかということ、今現在ないわけでありまして、そういうことを考えたときに、やはり駅北大火という一つの本当に災害に合わせて、今ちょうど、その土地という形の中においては、余裕ができた中においてそういったものを設置しながらまちづくりの中で皆さんと一体となって商店街、住民の皆様方と取り組んでいきたいということで、行政の今やらなくてはいけないことを中心にさせていただいておりますが、それに併せてご要望があれば、それに併せていっても、私は問題ないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

これから建設される予定の子育て支援施設は、障害をお持ちのお子様に対する受入れも当然検討されていると考えますが、特記する課題があれば、お聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

機能につきましては、まだ決定しておりませんので、これからまたご意見を伺って、幅広いご意見を伺って決めていくというふうに思っております。

ただ、障害をお持ちのお子さんに特化して、何かをやるというわけではなく、誰もが利用しやすい施設を造っていくということが基本になるんだろうというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

質問の趣旨として、障害をお持ちのお子さんの受入れも対応すると思うんですけど、受入れをするならば、何かこういう問題があるとか、問題があるかどうかということなんですけど、そういった趣旨でお答えいただければと思います。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

特に課題というのではないと思ってます。福祉のまちづくり条例ですかね、そういったところをしっかり準拠して、施設を整備していくということだと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それを聞いて、安心しました。ありがとうございます。

子育て支援施設設置が人口減少対策、住み続けたいくなるまちづくりに必要な施設であると自信を持って進めていただくには、施設建設以上に運営のソフト面の充実ときめ細やかな運営が必要なことから、過去の懇談会や今後の懇談会で十分な聞き取りと提案を繰り返し行っていただき、日本一の子育てのまちと呼ばれるべく、官民挙げてしっかりと取り組んで組成していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

当然、先ほど都市政策課長も答弁したとおり、運営、ソフトが大切だと思っております。そこはやはり民の部分も、今上越市を例に出して申し訳ないんですが、上越市のオーレンプラザというのは、NPOがしっかりした運営をしています。そういった、昨日も答弁しましたが、人の部分というのも運営面しっかりしていく中で、施設の魅力を上げていきたいなというふうに今思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、2番目に移りたいと思います。

我々みらい創造クラブが頂いているご意見では、施設設置に関して建設的なご意見もありますが、今まで規模感と変わらないものを設置するのであれば意味がない。出生がどんどん減ってきているので、新設での子育て支援施設設置は必要ないと現時点においても建設に関し、反対の傾向が見ら

れました。懇談会の中で、反対と言われる主な理由について、お考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

いろいろな声を聴いております。まずは、施設の規模的に少しぱっとしないんじゃないかという声も聞こえます。

ただ、その中で、昨日の田原議員の質問にもお答えしたんですけど、子育て支援というのは、行政がいろんなニーズ・課題をスクリーニングをして考えた施設で、あと市長の答弁にもありましたけど、皆さんからご意見を頂いて、それに加えてという、その考え方というのもちよっと伝えられてなくて、私どもサンプルとして子育て施設の配置の図面を出したことも、結局は行政のやりたいことだけあんたたちはやるんでしょというふうな、かえって誤解を招いてしまったというところは、今後の反省なんですけど、今ほどの市の考えというのをちゃんと丁寧にお伝えして、さっきの答弁じゃないですけど、キャッチボールを続けていきたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

その反対意見に対して、どのように対応していくのかというのが、今後大切になるかと思っています。我々みらい創造クラブが、11月6日に行ったみらいを創造する会において、参加者19名の中のおよそ半分の方が、子育て支援施設設置予定について知らなかったと答えております。基本計画策定までの間の意見聴取において、極端な言い方をすると、その情報の取り扱い、行政側の胸三寸に収めることも可能であると考えます。結局、行政は何も聞き入れてくれなかったという状況にならなように、今後どのように決定していく情報をフィードバックしていくお考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

これまで270名近い方とお話しさせていただいてるんですけど、やはりこれでも知らなかったという声は、いまだに聞こえてきます。恐らく役所の中にも知らないという職員はいるんじゃないかなと思いますので、ここはこの努力を継続するしかないんですけど、今現在2巡目の意見交換をさせていただいていまして、大事なのは頂いた意見というものをちゃんと皆さんにお示しして、どうやって計画に反映するか、しないか、そういったプロセスというのもちょうと皆さんにお示しするということが、これからのやり方なんじゃないかなというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく申し上げます。

子育て支援施設設置は、まちなか大家族を形成するに当たり、駅北にとっても新しいまちづくりの方向性を示唆すると考えますが、大家族というフレーズは、核家族化が進み、多様化する生活様式に対し、なじみの薄いイメージがあります。いま一度、まちなか大家族と子育て支援施設設置の相関性をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

まず、現在やっぱり核家族、そういったものが多くなっているというところと、このまちなか大家族というのは、基本的にはそれほど関わりがなく、今回、まちなか大家族という、将来、駅北地区が目指す姿として出しました言葉につきましては、人と人、人とまちがつながる。そのつながりを育むことで、駅北地区が市民にとって家のように居心地のよい場所と、特別な場所となるように、市民の暮らしが豊かになる姿を表して、「つながり、育む、豊かな暮らし、まちなか大家族」という姿をまちづくり戦略の中で明らかにさせていただきました。その実践に向けた中に子育て、地産地消、高齢者元気という、当時は3つのテーマを掲げて、それらの実践活動をしていこうといったところでまちづくり戦略はつくられています。その子育ての中の実践活動に役立つ施設の施設としても考えられるだろうということで、行政の課題であった子育て支援施設の整備について進めていこうということを提案させていただいたわけです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先ほどの内容に戻りますが、反対意見の検証を十分に行っていただき、子育て支援施設設置について十分に理解を得られるよう情報をフィードバックしていただきたいと要望しておきます。

3番目に入ります。

プラスアルファの要素についてでございますけども、7月29日の説明会において、プラスアルファの要素について民間と行政の認識の違いがないかというふうに感じましたので、再度質問させていただきたいんですけど、行政のプラスアルファの認識は、子育て支援に広い遊技場がプラスアルファとして説明資料に出されていると思うんですね。民間の当時の、その中でお話しされたお話というのは、浴場だったり、そういう高齢者がくつろげる空間だったりというところがプラスアルファという認識でおったかと思います。まず、その認識の違いがあるんじゃないか、行政は何も聞



いてくれてないなというのが、あの説明資料の中で読み取れたんじゃないかなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

そのような伝え方しかできなかった、ちょっと反省を踏まえまして、プラスアルファということに関しましては、まず、行政の考えます子育て支援といいますのは、まず子育て相談、あと屋内の遊び場、一時預かり、この3つの機能をまとめて子育て支援というふうに言っておりますので、プラスアルファが遊び場じゃないということを、またこの場をお借りして、少し強調させていただきます。そこに遊び場に対するニーズは多いんですが、そこは子育て支援のほうの中に含まれていて、あと皆様から頂いたご意見、あと民間の参入の可能性みたいのも踏まえまして、そこに、まだ付加する機能を検討をしていくということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

以前、大町、緑町、新七区の説明会に私もオブザーバーで参加させていただいたんですけども、本当にこれでやるのという、子育て支援のものだけしか表記されていなかったことから、当初話した話って聞いてくれるのというすごい誤解があったと思うんです。そういったところで、また今、課長がご説明いただいたような説明を繰り返してくわけですけども、本当にできる、できないというところも今後明確になっていくと思うんですけども、丁寧にご説明しないと、本当に子育て支援施設どころか何も造れなくなっちゃうんじゃないかなというぐらい、ちょっと危機感を感じました。今後、そういった説明をきっちりしていただけるということで了承したいと思いますし、丁寧な説明を進めていただきたいと思います。

続きまして、再質問させていただきます。

活用できる敷地が確定していて、行政課題、駅北の地域課題が見えているのならば、サウンディング調査が実行できると考えるが、いかがお考えか。民間事業者の意欲向上が期待されない限り、PFIによる事業化は、絵に描いた餅であると考えますが、しかしながら、地域課題に対し、じっくり時間をかけて様々な可能性を追求するべく対応される必要が、今後はあると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

民間の参入に関しましては、昨日の、またこれも答弁と重なってしまいますが、前回の市の計画がおぼろげだったという反省を踏まえまして、少し計画段階から前のめりに動いていきたいと思いますが、いずれにしてもやはり民間の方にお話するとすると、アウトライン、骨格ぐらいはイメージしていかないといけないものですから、今、計画づくりと、昨日は追走をして進めていくという言い方をいたしました。

あと時間のことに関しましても、まずは、私はスピード感は大事だということは考えております。

ただ、計画の根っこの部分というのは、常に意識し続けないと議論がとんちんかなほうに行ってしまうし、こういう子育てプラスアルファみたいなところは、先進事例というのも多数あるかと思しますので、その辺の研究というところには、私たちの仕事のする時間という意味での時間というのは、ちゃんときっちりかけて、取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくお願いします。

地域課題を解決するであろうプラスアルファの要素、民間の方々がおっしゃるプラスアルファの要素を1つの施設で提供・完結するには、先ほどから申し上げております民間参入の可能性や敷地の大きさについても再検討しなければならないと考えますが、ただ、行政課題である子育て支援施設設置において、十分な機能や安全性を担保するとすると、しっかり地域課題とすみ分けして対応する必要もあると考えますが、現段階でのお考え、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほど寄せられた声を民間可能性とかいう話もいたしました。当然、子育て施設と地域課題、相性のいい部分と、全然これじゃあ全く相反するというのがあるかと思えます。あともう一個、そこに人が来て、商店街の方にその人たちからお金を稼いでいただきたいというのもございますので、その辺地域課題は地域課題、子育ては子育てというのではなくて、できればお互い効果を高め合うというところは、やはり探っていかなきゃいけない、私はハードルだと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

4番目の質問に移りたいと思います。

魅力ある施設が好ましいと考えますが、お考えを伺いたいというところの質問です。

糸魚川にお住まいの子育て世代の方々に伺うと、上越市、妙高市にある子育て支援施設は、買物などのついでに立ち寄ると伺っております。子供の集客が多い南口の、糸魚川駅ですね、南口のジオパルに関しては、単体でも魅力度が高い目的地となり得ますが、他市からの来場を望める子育て支援施設を設置するとなると、目的地としての魅力度をさらに高める必要があると考えます。他市から人を呼び込むと仮定するならば、子育て支援施設の魅力をどう打ち出していきたいか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市長答弁のとおり、まずは市内の子育て世代にとって魅力的な施設を考えていきたいというふうには思っておりますが、昨日も私答弁いたしました、市内の子育て世代の方は、上越、妙高、それより遠くのやっぱりそういった屋内遊戯施設に通われてるというのが、先月の意見を伺った際に多く市外の施設が出てまいりましたので、非常に期待値といいますかニーズが高いというふうには思っております。そういった方々のご意見を伺う中で施設を魅力化するというのが、イコール市外の方からも来ていただけるような施設になるんじゃないかな。屋内遊戯施設についてはなるんではないかなというふうには思っております。遊具だとかしつらえに工夫をしながら整備につなげていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

子育て支援施設の中の内容について少し触れたいと思うんですけども、一時預かり保育を実施するとのことなんですけども、こういった一時預かりを行うとなると、認定こども園的なそういう何か許認可というのが必要になってくるのか、その辺手続的な問題なんですけども、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

子育て支援センターとセットで一時預かり機能というものが、国の実施要綱で望まれているといえますか、そういったところから一時預かり機能というものを今イメージとして加えてございますが、許認可、保育園のように、国なり県の許認可が必要かということですが、許認可は必要ございません。

ただ、国の、先ほど申しました実施要綱におきまして、一時預かりの面積要件がございます。乳児の場合の面積だとか、匍匐、はいはいする、そういった施設を造る場合には、1人当たり3.3平方メートル、畳2枚分でありまして、そういった基準がありますので、定員を何名にするか、こういった形の運営をするのかといったところで、その施設の規模が変わってまいります。

当然、運営にも国の補助を見込んでいかなければいけないと思っておりますので、そういったところの基準というのでもクリアしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

何でもこんなことを聞いたかということ、中で働かれる方はどういった方が、例えば過去に保育園の先生を経験されてたとか、そういった経験のある方が働かれると、預けるのも安心して預けられるかなというのもありますし、会社として、過去ほかの場所でそういった運営をしていた経験・ノウハウがある方が来るのかどうか、その辺のイメージがちょっと湧かなかったものでお伺いしましたが、その点について、どういった方が働かれるのかといところを教えてくださいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今現在、子育て支援センターは、市内に4か所ございます。全て保育士資格を持った職員が運営に携わってもらっています。今計画の施設におきましても、官がやるか民がやるかは置いておきましてもやはりそういった資格、有資格者、保育士なりの資格は、当然必要だろうというふうに思っておりますので、そういったところは、例えば民間に委託する場合でも、そういった資格の要件というのは、当然付して委託をするということになるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

子育て支援施設だけでは、子育て支援施設や遊戯場の施設だけでは、目的地として他市、他県から人を呼び込むことは、なかなか難しいと考える。まち歩きをしながら、分散型拠点であるジオパルやキターレなどと連携を図るイメージがあると思いますが、子育て世代が糸魚川で1日滞在できるようなメニュー等の構築も検討いただきながら、さらに糸魚川市が目的地となる準備を進めていただきたいと考える。

続いて、5番目の質問に入ります。

子育て支援施設の設置により、どんな協力が必要とお考えかという質問でございます。

子育て支援に関する施設設置は、現在までの行政課題解決に寄与すると考えますが、計画推進に対する議決と裏腹に、世間では、いやそんな話は聞いておりませんという状況が今後も発生するとも限りません。そんな中で肝要なのは、似たような資料で、似たような説明を何度も何度も繰り返すのではなく、近隣のお住まいの方に十分な理解、先ほども回答いただきましたが、あと施設と近隣の住民の関わりについて、今後どのようにしていきたいとお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

先ほどの答弁と少し似たところもありますが、意見交換を進める中で、この地元の高齢者団体の皆さんと意見交換をした際に、せっかく施設を造るのであれば、私たちも何らかの形でそこに、運営とかに関わらせてもらえるような仕組みをつくってけれんかと。ちょっと深く突っ込めていなかったのも、ただそういうありがたいお言葉・声も頂いておりますので、そういうお気持ち、特に高齢者の方からそういうお声がけ頂いておりますので、気持ちが続くような施設を目指して取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今質問しようと思ったんですけども、大前提に地域の方々と十分な協議が必要であるとは考えるんですが、子育て世代とシニア世代が交流できる機会や地域のシニア層による子育て支援が享受できる取組はお考えか伺いたいと思います。実際、糸魚川市の中でもシニア層が、積極的に子育て支援に携わる取組をされてる実態があるのかどうか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

シニア層と子育て支援の交流といいますか、そういったところなんですけれども、今現在でも各保育園なりでは、周辺のそういったシニア世代の方のお力を借りて、何か行事のときに地域の伝承的な遊びを学んだり、そういった関わりは、各園で持っております。今計画している施設でも、当然周辺のそういったお力というのは借りなければ、社会でやはり子育てをしていく上では、やはりそういった力は不可欠だというふうに思っておりますので、そういったソフト的な部分についても、当然検討していかなければいけない課題だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

懇談会説明資料の中の施設運営の検討で、民間活力導入方法を検討するため11月以降に可能性調査を実施し、民間事業者の活力を導入できる運営等の可能性を検討するとありますが、意見交換の中で意見を抽出しますと、こども課の機能を丸ごと持ってくるぐらいの意気込みと本気度が欲しいという意見もありましたが、これ現実問題として、まず可能なのか。そして、やはり今後の運営を考えているのは、指定管理者制度で運営のほうを考えておられるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今こども課全体というなお話ございましたけども、こども課の中には、学校の管理の部門とかそういった部分もございますので、今現在考えられるものとするれば、子育て世代の地域包括支援センター、具体的に言うと子育て支援係と親子健康係あたりになると思いますが、そちらが施設のほうへ移動するということは考えられます。

ただ、全部の機能をそちらに持っていった場合に、市役所の中で受付ができないという課題もありますので、その辺をどうバランスを取るかというのが今後の検討になってくるかと思えます。

また一方、指定管理者制度にするか、あるいは委託にするのかということも含めて、その辺まだ決定しておりませんので、今のところはお答えできないということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

何かと指定管理者制度、今、話題になっておりますが、十分な検討を重ねていただいて、方向性を決めていただきたい、そのように思います。

妙高市のわくわくランドという子育て支援施設を視察させていただきましたが、運営は指定管理者制度でされておりました。有償ボランティアという形で、地域の高齢者との関わりをつくられている様子でした。あくまで地域の方々はもちろん子育て世代の親御さんたちの意見も重要と考えますので、まちなか大家族を实践するべく、居心地のよい関わり方を研究していただきたいと要望したいと思います。

6番目の質問に移りたいと思います。まち歩きをどんな人に楽しんでいただくかという質問でございます。

子育て支援施設の設置を踏まえると、観光客というよりも地域で子育てを頑張る世代が、まち歩きをしているというイメージが思い浮かびますが、複数分散型の拠点のまちづくりの目的地からまち歩きに移行する展開イメージをお聞かせいただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほどから、まずは市内のお子様連れという話もありますが、あとその先に市外からという答弁もございましたが、子育て施設単体ですとそういう若干弱さというのはあるかもしれません。

ただ、そこで回遊と連携というのがやはりポイントで、東野議員おっしゃったようにジオパルは、年間に30万人お客様が来館いただいています。私がちょっとお話聞いた親子は、上越市から新幹線で子守を兼ねて糸魚川に来たというお客さんです。そういう来ていただいたお客さんに、その先

にも何か面白いものあるよというふうに、いかに見せるか、見れるようにするかというのがやはり大事、伝えることが大事なんだなと思っています。例えばキターレで鉄道に関するイベントをやるですとか、ジオパルの中のプラレール非常にお子さんに人気あるんですけど、触るなって書いてありますので、じゃあ子育て支援施設の遊び場のところ、例えばこの日はプラレールで思いっきり遊べる日みたいな、そういう関連づけて駅からお客さんを引き抜いてというそういうイメージというのが、私は思っておるんですが、これは公民連携が当然前提になりますし、出てきたお客様から、いかにお金を使っていたかというところは、やっぱり商店街の皆さんにも頑張っていたかといここでもありますので、そういう意味での回遊と連携というのが必要かというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど課長からご答弁いただいたような、聞いている人、想像する人が楽しくなるようなイメージですごく大事かと思えます。そういった中で、今後そういった施設ができるんだよというところで、ちゃんと楽しいイメージも伝わるような、人が足を運んでくれるような、そんなイメージもお伝えできればと思えますので、お願いします。

今後、雁木の足元にきれいな石畳が整備されてくると、誰しもが観光客にまち歩きを楽しんでもらいたいと感じると思います。まず、地域の方々にまち歩きを楽しんでもらうことで、新しい付加価値が見出されると考えますので、商店街の方々と連携を図りながら、まち歩きを楽しんでもらう方策も実践していただきたいと考えます。お願いします。

7番目の質問でございます。施設設置に当たり、どのようなほかに機能を考えているかというところでございます。

現在、駅北で計画されている子育て支援施設の設置については否定はいたしません。地域課題の解決と駅北復興のまちづくりに焦点を置くならば、みらい創造クラブでは、立地適正化計画の中でもうたわれている図書館をベースとした複合施設が好ましいと考えております。より多くの世代が交流すると思えますし、子育て支援施設、図書館、そして地域課題であるプラスアルファの施設設置となれば民間事業者の収益性に関しても意欲向上も見込め、PFIによる事業化も現実味を帯びるのではないかと考えております。

スターバックスコーヒーのお話も今議会の中でございましたが、スターバックスコーヒーの参入も視野に入れば、糸魚川の学生にとっても価値のあるエリアとなり、さらに国道からの観光客の入込みも見込めると考えます。多くの時間を要すると思えますが、子育て支援施設と併せ、図書館をベースとした複合施設の検討はできないか、米田市長にお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

魅力のある施設にしないでいけないわけでございますので、何が魅力であって、何が吸引力がある施設になっていくかというのは、やはり十分検討していただきたいと思っております。まずは、何度も申し上げますが、住んでおる人たちと一体となれるものにしていきたいと思っております。やはりそういったことがないと、長続きしないわけでありまして。確かによそからおいでいただきたいということは、非常に目的の中に大きくあるんですが、住んでいる人たちが楽しめる施設にしていかなければいけないだろうと思っております。

そのようなことから、そういったところを中心にしながら、また市民の皆様方とキャッチボールしていきたいと思っております。その中においては、今言ったように少しおいでいただいて、お茶を飲む場所も必要なのかもしれませんが、また、そこで集まって、地域のコミュニティの醸成も必要なのかもしれませんが、そういった多目的なものを考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくをお願いします。

冒頭にも申し上げましたが、糸魚川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンには、人口減少問題に取り組む意義は的確な政策を展開し、官民挙げて取り組めば未来は開けると糸魚川市がうたっております。

第3次糸魚川市総合計画案の2つの重点課題、人口減少対策、住み続けたくなるまちづくりを念頭に、近隣住民や子育て世代に限らず、糸魚川市民が、商店街がわくわくする施設設置が待ち遠しいと言われる施策を強く要望いたしまして、私の質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

これもちまして、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後4時13分 散会〉